

大祓詞

現代語訳（翻訳）

高天原に神留り坐す 皇賀親神漏岐

神漏美の命以ちて 八百万神等を

神集へに集へ賜ひ 神議りに議り賜

ひて 我が皇御孫命は 豊葦原水

穂国を 安国と平けく知ろし食せ

と事依さし奉りき

此く依さし奉りし国中に 荒振る神

等をば 神問はしに問はし賜ひ 神掃

ひに掃ひ賜ひて 語問ひし 磐根 樹

根立草の片葉をも語止めて 天の磐

座放ち 天の八重雲を伊頭の千別き

に千別きて 天降し依さし奉りき

高天原(天上)にお鎮まりになられる
民族の祖神、カムロギ(男神)カムロ
ミ(女神)のご命令によって、八百万
の神々が集まられて、会議に会議を
重ね、議論に議論をつくされた結
果、天照大御神は、「わが子孫であ
る皇御孫命(天皇)よ、豊葦原の瑞穂
の国(日本)を、安らかな国として平
和に治めなさい」と仰せになり委託
されました。

しかし、託された国内には、不平を
言っては反対する神々がいましたの
で、この神たちの考えや不満を何度
も聞き直し、また見直ししながら、
国造りに協力して貰えないか繰り返し
相談しましたら、荒れていた神々
は、やがてその真意を理解し協力す
るようになりました。すると岩や木
や、草の一葉までもがこれに同調
し、騒乱の国土はすっかり平穩に治
まりました。そこで皇御孫命は、高
天原の御座所を立たれ、幾重にも重
なる雲を掻き分けながら、地上に降
臨されました。

此く依さし奉りし四方の国中と大
倭日高見国を安国と定め奉りて

下つ磐根に宮柱太敷き立て 高天

原に千木高知りて 皇御孫命の瑞の

御殿仕へ奉りて 天の御蔭 日の御蔭

と隠り坐して 安国と平けく知ろし

食さむ国中に 成り出でむ天の益人

等が 過ち犯しけむ種種の罪事は

天つ罪 国つ罪 許許太久の罪出でむ

此く出でば 天つ宮事以ちて 天つ金

木を本打ち切り 末打ち断ちて 千座

の置座に置き足らはして 天つ菅麻

を本刈り断ち 末刈り切りて 八針に

取り辟きて 天つ祝詞の太祝詞事を

の
宣れ

このようにして天照大御神から、委託を受けた皇御孫命は、国の中心の大和の地を都と定められ、盤石な礎石の上に太い柱を建て、屋根は天まで届くかのような高い千木を取り付け、荘厳な御殿をお造りになりました。

その御殿で皇御孫命は、皇祖の神々のお陰を戴きながら、この国を平安な国として治め、さらに努力しますが、国内に生れ育つ人間というのは悲しいもので、故意の罪や無意識の過ちを犯したりして、数多の罪や穢れを溜めてしまうのです。

皇御孫命は、そのような罪穢れが生じた際に、それを消し去る方法を教えました。それは、高天原の神々の儀式に倣って、細い木の本と末を切り揃え、これを罪の贖い物として、多くの台の上に沢山積み、また菅や麻の本と末も切り、真中の良いところを細かく裂き、それを祓いの道具に用いて神事を行い、この神聖な祓いの祝詞を唱えなさい。

此く宣らば 天つ神は天の磐門を押

し披きて 天の八重雲を伊頭の千別

きに千別きて 聞こし食さむ 国つ神

は高山の末 短山の末に上り坐して

高山の伊褒理 短山の伊褒理を搔き

別けて聞こし食さむ

此く聞こし食してば 罪と云ふ罪は

在らじと 科戸の風の天の八重雲を

吹き放つ事の如く 朝の御霧 夕

の御霧を 朝風 夕風の吹き払ふ事

の如く 大津辺に居る大船を 舳解き

放ち 艦解き放ちて 大海原に押し

放つ事の如く 彼方の繁木が本を焼

鎌の敏鎌以ちて 打ち掃ふ事の如く

遺る罪は在らじと



このように唱えるならば、天上の神は高天原の門を開かれて、幾重にも重なった雲を押分けてお聞きくださるでしょう。また地上の神も、人間の様子がよく見える高い山や低い山に登られて、靄や雲や霧を払いのけ、人間の願いをお聞きになるでしょう。



このように、天上の神や地上の神々が、お聞き届け下さいましたならば、四方世界の罪穢れは一切なくなってしまうでしょう。それはあたかも、風が八重の雲を吹き払うように、また朝夕に立ちこめる霧を風が吹き払うように、あるいは港に繋ぎ止めて不自由な様子の、船の綱をほどこき、自由に広い海を航海させるように、また鬱蒼と繁っている木々を、鋭い鎌で切り払えば、回りが明るくなり、爽やかな気持ちになるように、漏れ残る罪穢れは一つもないように祓われて清らかになるでしょう。

祓へ給ひ清め給ふ事を 高山の末

短山の末より 佐久那太理に落ち多

岐つ 速川の瀬に坐す 瀬織津比売と

云ふ神 大海原に持出でなむ

此く持ち出で往なば 荒潮の潮の八

百道の八潮道の潮の 八百会に坐す

速開都比売と云ふ神 持ち加加呑み

てむ

此く加加呑みてば 気吹戸に坐す気

吹戸主と云ふ神 根国 底国に気吹

き放ちてむ

此く気吹き放ちてば 根国 底国に

坐す速佐須良比売と云ふ神 持ち佐

須良ひ失ひてむ

このように祓い清められた罪穢れは、高い山低い山の上から、谷間を勢いよく流れ落ちる早川の瀬にいる瀬織津姫という神様が大海原に流し去ってくれるでしょう。

大海原に流されたならば、押し寄せる荒潮がぶつかり合って、渦を巻いている所にいる速開都比売という神様が、大きな口を開けて罪穢れをがぶがぶ飲み込み、海底深く沈めてくれるでしょう。

海底深く飲み込まれた罪穢れは、次の、息を吹き出す所にいる気吹戸主という神様によって「根の国、底の国」という地下の国に遠く吹き放ってしまわれるでしょう。

吹き放ってくださいると、根の国底の国にいる速佐須良比売という神様が、何処とも知れず運び去って、跡形もなく消し去ってくれますよ。

かく 佐須良ひ失ひてば罪と云ふ罪

は在らじと 祓へ給ひ清め給ふ事を

天つ神 国つ神 八百万神等共に

聞こし食せと白す



このように、あらゆる罪穢れを消し去って戴きますことを、天上の神様、地上の神様、そして八百万の神様ともどもに、どうかお聞き届け下さり、私たち人間の罪穢れを祓い清めて戴きますよう、謹んでお祈り申し上げます。